

修士論文要旨

学籍番号 21GH151 第 号

氏名 JIANG XUDA

考古学 専攻 (コース: 文化芸術)

論文題目

アイヌの民族服装及び地域性特徴についての研究調査——函館市北方民族資料館の資料を中心に

約12、13世紀ほどから、北海道と千島列島、樺太南部の蝦夷地に生活していたアイヌは、生活習慣と宗教、生業、民具、服装、装飾品などの方面に、ヤマト文化と異なる先住民文化を発展させた。しかしながら、北海道の開拓と内国化の政策の実施とともに、アイヌの独特な文化はヤマト文化の同化の影響を受けて、消滅の危機に陥っていた。

アイヌの日常生活において、文様が溢れていた。文字を持たないアイヌ文化において、独特な文様文化はまさに服装をはじめとする媒体として表せる。そのため、修士論文は主にアイヌの服及び文様を中心として研究を進める。

アイヌの研究史には、服を対象として研究した人は多かった。しかしながら、彼らの中に、各採集地の服のデータに比較することで各種類の衣服の文様配置と地域の特徴を分析した人は少なかった。そのため、筆者は函館市北方民族資料館、またロシアと北海道の博物館の図録から総計200点のアイヌ服の資料を収集した。分析しやすくするため、筆者は先行研究から集めた文献資料 (『アイヌ芸術 服装篇』、『アイヌ民族誌 上』など) に基づき、アイヌの服の各部の名称を確定した。そして、服を採集地と種類で分類にした。上述の先行研究に基づき、服の数、主体の素材、衿の有無、切伏文様と刺繍技法などを分析して、データベースを作成した。

データベースに基づき、①文様の技法②衿の有無③一着と二着の分布④生地類別⑤刺繍の技法⑥アイヌ文様配置という6つの方面をめぐって収集した服装に分析を行った。そして、日高と胆振、樺太から収集した服装の点数はもっとも多かったため、地域性特徴の分析は主にその三つのエリアを対象として進む。データ分析を通して、異なる種類の服装における共通点・相違点を明確し、各種類服装および各収集地の服装の特徴を探究する。こうなると、消滅の危機に陥っていたアイヌの文化を保護するために、少しでも力を尽くしたい。

服装の分析が進むにつれて、今回の研究において下記の三つの不足点を認識していた。①服装に関する資料は不足であったこと②収集された服におけるデータが不完全な状況があったこと③アイヌの交易歴史を調査しなかったこと ①と②がデータベースの不備を反映していたため、今後研究はデータベースの完備を目指し努める。

そのほか、アイヌの服装と文様文化は大陸の先住民の文化と繋がりと判明された。そのため、今後の研究において、筆者は今回の研究成果に基づき、アイヌと周辺の先住民のものと比較研究を通して、服装と文様におけるアイヌと先住民との共通点・相違点を探究しようと考えている。

キーワード: アイヌ、北海道、樺太、服装、切伏せ、刺繍、文様